

第1回 旧広島陸軍被服支廠の活用の方向性に係る懇談会 (要旨)

日時 令和3年11月10日(水) 14時30分～

場所 食品工業技術センター大会議室

1 開会

2 委員紹介

3 会長選任

出席委員の互選により、次のとおり会長を選任した。

会長：岡田 昌彰（近畿大学 社会環境工学科 教授）

4 議題

(1) 懇談会の進め方について

資料3「懇談会の目的や検討プロセス(案)」により説明

【委員からの主な意見】

- ・ワークショップなどで、多様な県民の意見を聞きながら検討を進める考え方は良い。
- ・若い人にも入ってもらうのが理想である。
- ・建物の価値を懇談会、ワークショップで共有して検討を進めていく必要がある。
- ・ワークショップ等に参加できない方々の意見を聴取する仕組みが必要である。

(2) ワークショップの進め方等について

資料4「ワークショップメンバーの公募用資料(案)」により説明

【委員からの主な意見】

- ・全5回参加してもらうことで、アイデアの深堀ができる。
- ・コロナ禍の中で、安全に開催するため、対面式とオンラインを組み合わせたワークショップの実施について、検討する必要があるのではないか。
- ・ネット環境のない方々への参加募集の情報発信について、工夫する必要がある。

5 懇談会の運営について

原則公開で行うが、活用の具体的な意見交換等については、個人名や企業名などの固有名詞が出ることも想定されることから、非公開で行うこととされた。

6 その他

【委員から被服支廠に関する感想】

- ・建物だけでなく敷地全体や周辺の街並みとの関連性の中から広く考えて行けたら良いと思う。例えば、子供たちも含めた憩いの場になり、歴史等を体験しながら感じられる場になるとよいと思

う。

- 地元の人からより愛される被服支廠の活用が、長期的にまちとしての魅力を高めることにつながると思う。
- 多くの方が「こんな風に活用できてよかった」と思えるようにお手伝いできたらと思う。
- 被服支廠は、被爆建物であること、戦後を象徴した建物であることを残していく必要があり、それに合う活用というのほどのような方法があるのかを考えていきたい。
- ハードとソフトの両面で地域に愛されるような施設にしたい。
- 歴史に関心を持っていない人にも来てもらい、見てみると知りたくなるというように、歴史を学ぶきっかけになればよいと思う。

以上